

令和5年6月22日付【日本水道新聞】
水コン協総会 会員支援に注力
＜目下の課題は人材確保＞



目下の課題は人材確保

水コン協総会 会員支援に注力

全国上下水道コンサルタント協会は8日、都内で第42回定時社員総会を開き（写真）、事業と予算・決算に関する報告の後に役員選任などを決議した。間山一典会長（日水コン社長）は今後の大きな課題に「担い手不足の中での人材確保」を挙げ、支援に力を入れていく姿勢を示した。

あいさつに立った間山会長は、総会の通常開催について「明けぬ夜はない。パンデミックを乗り切ったのだな」と感じている」と述べた上で、



間山会長

コンサル業界の現況に言及。11年連続となる設計業務委託等技術者単価の引き上げや、国土強靱化を法定計画に位置付ける動きなどを明る材料に挙げつつ、人材確保に向けて「コロナ禍で遅れを取った広報やリクルート支援活動の巻き返しを図りたい」との考えを示した。また、来春の水道行

政移管について「変化に不安はつきものだが、新しい時代の始まりと捉え、前向きに対応していきたい」と意気込んだ。中期行動計画2年目となる今年度は▽人材確保支援▽技術・品質・倫理向上支援▽多様な官民協働の推進▽協会活動の強化―に取り組み。人材確保支援では会員企業の条件整備や事業環境の改善、官民協働に関しては人材育成やその手法の開発・普及促進に努める。昨年度は水コン協ビジョン（2015―2025）に基づく第3期中期行動計画（2022―2024）に沿って諸活動に取り組んだ。コロナ禍の影響で中止した行事もあったが、7支部での本

部・支部意見交換会、正副会長らによる国や関係団体との意見交換などを実施した。また、新たに8団体と災害時支援協定を結び、締結団体数は合計71団体となった。都道府県の一括協定に参加している市町村などを含めた場合は414団体となる。役員選任では、日本水工設計の細洞克己社長が副会長に、中日本建設コンサルタントの庄村昌明社長が中部支部長にそれぞれ就任。また、理事として東京都下水道サービスの神山守社長と日本水道協会の本荘谷勇一工務部長が、監事として富洋設計の富高彰一社長が新たに選任された。総会にあわせて協会表

彰も行われた。各賞の受賞者は次の通り。

【功労賞】小西康彦（日水コン）▽澤村三津久（東洋コンサルタント）▽松井明（日本水道設計社）▽原谷篤夫（中国水工）▽山地芳和（朝日設計）▽岩崎晃（オリジナル設計）

【有効賞】AIを活用した下水道管きよの異常判定（日水コン）▽大規模浸水に対応した下水処理場の耐水化対策計画（東京設計事務所）

【新技術奨励賞】AIを活用したリアルタイム浸水ハザードマップシステムの開発（日水コン）